Rotary Club of Hiroshima New Generation

広島新世代ロータリークラブ会報

国際ロータリー第 2710 地区

2025-2026 年度　Vol. 3

2025 年 11 月 6 日（木）第 3 回例会　【対面式 ZOOM ハイブリッド例会】

会　長　時　間

ロータリーは自己研鑽の場です。みなさんこんばんは。

この会長時間は、世間話や娯楽的な話ではなく、ロータリーに関する情報を提供する時間です。これまで、第 1 回例会では、「ロータリーソング」と「四つのテスト」について、第 2 回例会では、ロータリーが大切にしている、「親睦」と「寛容」という 2 つの価値観についてお話ししました。

今日は、模擬例会でお話ししたことの繰り返しになりますが、今一度、ロータリーの奉仕とは何か、ここを理解しないでロータリー活動をすると、ロータリーは全く皆さんのためになりませんので、少し長くなりますがお話ししたいと思います。

皆さんもうご存じの通り、ロータリーが誕生したのは 1905 年 2 月 23 日です。日本は明治 38 年、日露戦争の講和条約が締結され、ロシアではロシア革命が起こった年です。この日、ロータリーの創始者であるポール･ハリスを含めた 4 名が、世界最初のロータリークラブであるシカゴロータリークラブを設立しました。ポールハリスがシカゴロータリークラブを設立した理由は、ポールハリス本人が言っているように、大都市シカゴに出てきた田舎者の弁護士であった彼が、殺伐とした当時の社会の中で、仕事抜きに和気あいあいと付き合える仲間が欲しかったからです。

当時のシカゴは、開拓者が西に向かう拠点で、酒、賭博で乱れきった世の中でした。社会道徳レベルは極めて低く、街中ゴミだらけ。チャンスがあれば利口な者がそうでないものを蹴落として理不尽な利益を得る。第 1 回万国博覧会が開催された直後でしたが、万博のための過剰投資は一気にはじけて、劇場、ホテル、アパート、貸事務所、あらゆる方面で破綻が相次ぎ、史上最悪で最も悲惨な金融恐慌にありました。こんな中で、寂しいから仲間を作ろうとしたポールハリスでしたが、理想だけで生き残っていける様な場所ではなかった。まずは生き残ること、経営者として成功することが必要であったのです。そこで、ポールハリスは 5 年の歳月をかけて、仲間同志が互いに取引して儲けるという、初期ロータリーに見られた相互扶助を中心とするクラブの構想を練って、この日、1905 年 2 月 23 日、気温 2.2 度の凍てつくような日、他の 3 人の創設者、石炭商のシルベスター･シール、鉱山技師ガスターバス・ローア、洋服商ハイラム･ショーレーに構想を話し、ここにシカゴロータリークラブが設立されたのです。

この頃のロータリーが相互扶助に基づいて自分たちだけ儲かるクラブだったことに対して、当時も今も批判がありますが、大事なことを申し上げますと、設立メンバーの 4 人は乱れきったシカゴで堅実な商売をしている立派な経営者ではあったものの、ポール以外は大学を出ていない中小零細企業の経営者だったことです。そんな彼らに必要だったのは、まず利益を上げて自分が生き残ることだったということは、理解しておかなければなりません。

さて、その設立から 3 年後の 1908 年に、後にポールハリスが「天の助け」だと語っているアーサー･フレデリック･シェルドンがシカゴロータリークラブに入会し、その後のロータリーを方向付ける大偉業を成し遂げます。それは、ロータリーの奉仕を理論的に整理したことです。

シェルドンは、相互扶助で仲間だけが儲かったロータリーの活動であっても、実は相手のことを親身になって考える心に基づいていることを見抜きます。言うまでもなく当時も今も、私たちは自由主義の世界に身を置いていますので、競争は避けられません。しかし、競争を前提としながらも、相手に対する思いやりがある商取引によってのみ、お互いに長期的に利潤を安定させることができると説いたのです。これが、いわゆる、「利己と利他の調和」を前提とするロータリーの奉仕となっていきます。

シェルドンの理論は、まずは、ロータリアンが職業を通じて世の中を良くしていこうとする「職業奉仕」と呼ばれる奉仕として定着しました。その後、職業だけにとどまらず、一般社会でその精神を発揮しようという、ロータリーの奉仕そのものの骨格が出来上がります。つまり、ロータリアンは、仲間のロータリアンとの付き合いの中で、誰とでも仲間として接する、優しくできる自分になろうとする「自己教育」を行い、その結果、人に優しくする心を育て、これを、まずは職場で職業奉仕として発揮することを基本としながら、それにとどまらず、人に優しくする心を家庭で、そして一般社会で、社会奉仕として発揮する人々である、というロータリーの奉仕概念が確立されていったのです。

このように、ロータリーとは、ロータリアン個人が自らを成長させ、人に優しくする心を対外的に発揮しようとする、個人運動が基本です。ロータリアンの集まりであるロータリークラブは、会員であるロータリアンの成長を助けるという機能を持っていますが、現在のように、クラブが主体となって行う団体的な奉仕というものは、実は当初は想定されていませんでした。

さて、実はこのシェルドンの唱えた、個人による職業奉仕を中心とした奉仕概念が普及し始めるあたりから、ロータリー世界は少々血なまぐさくなっていき、まさに、産みの苦しみとも言える混乱を 2 度も経験します。

1 つ目の混乱はシカゴロータリークラブで起きました。ポールハリスは、シェルドンが唱えた、個人による職業奉仕を中心とした奉仕概念をシカゴクラブの中で積極的に広めようとしましたが、そのやり方が少し強引すぎたため、それまでの親睦と相互扶助だけでいいじゃないかという「親睦派」と、もっと対外的に奉仕活動をするべきだという「奉仕派」との対立が起こったのです。その結果、ポールは四代目会長を任期半ばにして辞任しました。

その後、ポールハリスは、全米に増えつつあったシカゴクラブ以外のロータリークラブ全 16 団体を束ねる団体として、1911 年に、現在の国際ロータリー（Rotary International）の前身である全米ロータリークラブ連合会を結成して初代会長となりました。そして、この団体をベースに、シカゴクラブで失敗した奉仕概念の普及を進めました。この課程で、ロータリーは親睦だけでいいという考えはなりを潜め、ロータリーは奉仕をする団体なのだという考えが一般化していきました。

こうして、「自己教育運動」を行う個人による職業奉仕を中心とする奉仕概念は、全てのロータリークラブの標準となっていきましたが、ここで再び、ロータリー世界に大きな 2 回目の混乱が起こります。

すなわち、シェルドンが説いたように、血なまぐさい自由競争の中にあっても相手を思いやり、各個人が職業を通じて行う職業奉仕こそがロータリーの奉仕だと信じる伝統的な人々がいる一方で、当時各地のロータリークラブで大きな盛り上がりを見せた身体障害児救済運動の影響で、ロータリーはそのような団体的に行う社会奉仕を、もっと進めるべきだという急進的な考えも大きくなっていき、この 2 者が激しく論争を繰り返すようになったのです。個人による職業奉仕か、あるいは団体による社会奉仕か。まさにロータリー分裂の危機でした。これを終結させるためには、ロータリーはどのような奉仕をするかを明確に規定する必要がありました。それを成し遂げたのが、いわゆる「決議 23－34」と言われる 1923 年の国際大会における決議 34 号でした。1923 年は関東大震災が起こった年です。

「決議 23－34」の解説は今日は行いませんが、非常に重要なことが決定されています。まず、ロータリーとは個人が受け入れ実践するもので、個人奉仕が基本ですが、これと同時に、クラブによる奉仕、つまり、「団体奉仕」も認められました。ロータリアンは個人奉仕を基本としながらもクラブが行う団体奉仕に協力してもよいことが正式に決定されたのです。これは今でも変わっていません。

ロータリークラブは地域社会の優良な職業人が中心となった社交団体ですが、そこで培われる人に優しくする心を奉仕のエネルギーに転化させ、まずは職業奉仕として世の中に還元し、さらに社会奉仕として放流していきます。これらはすべて個人奉仕が基本となっていますが、同時に団体奉仕も認められました。当クラブではこのようにロータリーの奉仕哲学をお伝えしていますが、多くのクラブでは、残念ながらそうではありません。その結果、ロータリーは個人奉仕が基本であることを伝えられていない皆さんは、ロータリークラブが進める団体奉仕だけに協力すればいいと誤解し、ロータリーは単なる奉仕団体であると思い込んでしまう傾向にあります。しかし、ロータリーはロータリーの教義を受け入れた個人による、個人奉仕が基本であるということはよく覚えておいていただきたいと思います。クラブではなく、皆さん一人一人がどう考えどう行動するかが、ロータリーの基本中の基本なのです。

ではなぜ、日本の多くのロータリークラブで、このような奉仕哲学の伝承が成されなくなったのでしょうか。日本初のロータリークラブである東京ロータリークラブは 1920 年（大正 9 年）に誕生しました。当時、誰を会員にするかで議論がありましたが、結局、米山梅吉や福島喜三次（ふくしまきそうじ）といった、英語がわかる超一流の経営者が担うしかありませんでした。しかし、ロータリーはもともと、シカゴロータリークラブを作った 4 人のように、学歴のない中小零細企業経営者が築いてきたものです。それが日本では致し方なく高学歴の大経営者が担うことになりました。これ自体は悪いことではなかったのですが、これには今に至る弊害もあり、ロータリーは「偉い」人の集まりである、との大きな誤解が、世間においても、またロータリアンにおいても、生じる原因になりました。ただ、彼らの大きな功績は、真剣にロータリー哲学を探求し、後世に伝える礎を作ったことです。近年、この礎が崩れ、ロータリーの理論を学ぶことを軽んじ、奉仕の実践のみに傾倒するロータリアンが増えてきたのは、どの組織にもある経年劣化だと言えます。人も組織も楽な方に簡単な方に流れていきます。1970 年代には、ロータリー哲学を真剣に学び実践してきた伝統を受け継ぐ日本の心あるロータリアンたちが、「このままではロータリーはただの奉仕団体になってしまう」と、ロータリーの将来を憂う事態になっていたようです。

僕が 27 年間ロータリー活動を続けているきっかけとなったロータリー研究家の小堀憲助は、著書「ロータリー思想の理論構造」の中で、このように述べています。

「現在日本ロータリーにおいて発生しつつある「大混乱」は、ロータリーが個人奉仕を中心とする社交団体であり、この団体の支えの上に RI の組織があり、従って、ロータリーの理論の探求及び開発は、第一次的には各ロータリアンにあることを忘れ、ロータリアン各自と各ロータリークラブが、このような理論構造についての探求を怠り、あたかも RI の忠実な僕（しもべ）たるガバナーの下僕として奉仕のプログラムを強要されるところにある。」これは、現在のロータリアン、ロータリークラブ、RI の現実を端的に表現しています。

当、広島新世代ロータリークラブは、今年 9 月 1 日に正式に発足しましたが、運営内規などに明記しているとおり、会員にロータリー哲学を正しく伝え、会員の、ロータリアンとしての、職業人としての、人間としての成長を支援することを第一義とします。皆さん、四つのテストの額はいつも目にするところに飾って、毎日目を通していらっしゃるでしょうか。以前申し上げましたように、わかるとヤルは大違いです。まずは四つのテストの実践できること、そして、会員同士が仲良くできることを目指して自己研鑽をお願いいたします。

以上で今日の会長時間を終わります。

例　会　次　第

・開会点鐘
・「四つのテスト」唱和
・ロータリーソングの唱和　「我等の生業」
・来訪ロータリアン及び来賓者の紹介
　　山田将宏（まさひろ）さん　副幹事　（京都洛東 RC　RID2650）
　　吉田直史（ただし）さん　社会奉仕委員会委員長　（京都洛東 RC　RID2650）
　　【オンライン参加】嶋村文男さん　東京東江戸川 RC　RID2580 パストガバナー
・会長時間
・幹事報告
・出席報告
・委員会報告
・例会プログラム
　　会員卓話「私の大事にしていること」
・閉会点鐘

幹　事　報　告

・10 月 19 日（日曜日）、「東広島芸術文化ホールくらら」にて地区大会本会議が開催されました。お疲れ様でした。
　【参加者】平本、伊藤（弘）、伊藤（史）、木坂、小野、杉岡、諏訪、谷口、渡辺

・My Rotary への登録のお願い。My Rotary は国際ロータリーが管理するロータリーのウェブサイトで、ロータリーに関する情報源です。10 月 9 日に成長支援委員会から My Rotary への登録のお願いのメールを送っていますので、登録がまだの方はすぐに登録いただき、色々中を見ていただきたいと思います。詳細な使用方法は別途お伝えいたします。登録に関して不明な点は幹事までお願いします。

・当クラブのウェブサイトについて。情報源なのでブックマークしていただき定期的に見てください。「広島新世代ロータリークラブ」で検索。

・Facebook グループについて。Facebook を使われている方はフォローして頻繁に見てください。グループ名は「広島新世代ロータリークラブ」

・次回例会は「認証状伝達式ならびに祝賀会（チャーターナイト）」を兼ねます。11 月 21 日（木曜日）午後 5 時からおりづるタワーにて。

出　席　報　告

本日の例会　参加会員数：　20 名中 19 名（うちオンライン参加者 3 名）【出席率 95%】
　　来賓・来客：　3 名（うちオンライン参加者 1 名）

委　員　会　報　告

なし

ス マ イ ル BOX

・杉岡英明さん 1,000 円。（徽章と名札を忘れてしまいました。）
・メークアップの山田将宏さん 3,000 円
・メークアップの吉田直史さん 3,000 円

皆さんありがとうございました！

プ ロ グ ラ ム

会員卓話：「私の大事にしていること」

前回に引き続き一人 5 分で卓話をしていただきました。

北田稔将さん

自分の言動の影響力を意識して人と接することを大切にしています。子供のサッカー観戦の中で多くの子供たちとの触れ合いますが、同じ目線で話をすることを常に心がけ色々な会話を楽しんでいます。純粋な気持ちで話をしてくる子供達と触れ合えて、私自身がとても幸せに感じることが多くあります。その一方で、監督・コーチが子供たちを言葉や態度で区別、差別をしていると感じたことがあり、教える人間、経営する人間は一つ一つの言動に影響力があることもあることを感じました。このような経験から、私も会社経営をしていく中で、社員や協力業者さんに対して自分の言動に影響力があると自覚し、恥のない言動ができるよう常に気を付けております。

槇下賢さん

職業柄（手芸店チェーンおよびラジコンサーキット運営）お客様に楽しんでいただくことが一番大事で利益もその結果ついてくるものと考えています。ではどうやってお客様に楽しんでもらうか？が命題になりますが、それにはまず自分が楽しむことが大事であると考えています。自分（スタッフも含め）が楽しんでいれば自然に楽しい雰囲気がお店やサーキットに生まれます。楽しい雰囲気を感じてもらえれば（やってみようかな？）とか（覗いてみようかな？）と思っていただけます。趣味（オタク）の世界では初めの一歩が一番大事で、入ってきてもらえさえすればそこには楽しい世界が広がっていますし、満足感、達成感は他の遊びでは得られないほどの快感があると信じています。

森田誠司さん

今から 14 年ほど前に「脳梗塞」という大病を患い死にかけた経験をしました。それから退院してわずか 3 カ月程度でまだ後遺症も随分残っている中、無理やり独立し今の会社を設立しました。死に直面した経験から私の信条にはそういうのもあったせいか、会社を設立して少ししてから「盛和塾」という故稲森和夫さんが主宰の経営塾に入塾し、たくさんの学びの中で、私が特に意識しているのは「利他の心」です。利己的な考えではお客様や世間から信用されないし、最終的には利

益も出ません。私は迷ったら、儲かるという選択よりも先様にとって良いか悪いかで判断するように心がけています。そして、その実践が廻り回っていつか自分に帰ってくるという因果応報の法則を信じています。

小野優人さん

①社労士として大事にしていること：お客様に対しては常に真摯に向き合い親身な対応する。対面している際は傾聴を意識する。仕事は迅速丁寧に対応する。感謝を忘れない。基本的なことだと思いますが、少しの気の緩みで疎かになることも正直あるので、やはりこの基本を100%ずっと継続することがお客様との信頼関係を築くのに重要だと思うので、大事にしています。
②宝物という意味合いで大事にしていること：家族です。日々日常で辛いことや悩むことはたくさんありますし、逃げたくなることもあります。でもやっぱり家族のことを考えると思っている以上に踏ん張れる、頑張れるので大事な存在です。

大上進さん

私が大切にしているのは、常に変化し続けることです。帰り道や昼食の選択といった些細なことから、仕事の意思決定まで、惰性ではなく自分の意思で選ぶ。かつては傍観者でしたが、チームを率い部下を育てる中で、主体性と信念をもって決める重要性を学びました。毎回違うことをするのではなく、核となる価値観は一貫させつつ、小さく試し、振り返り、次に活かす。この循環こそが私の成長の源であり、これからも自ら選び、変化を重ねていきます。プライベートでもビジネスでも、仮説を立てて小さく試し、データと対話で見直す。その積み重ねが環境の変化にしなやかに適応し、チームと自分の成果を高めると信じています。